

ラムサール条約登録湿地「佐潟」と佐渡のトキを題材に ESDプロジェクトを実施しました！

三井住友信託銀行では2012年より、環境専門のインターネット放送局グリーンTVジャパンと協働して次世代を担う子供たちに向けたESD（持続可能な開発のための教育）プロジェクトに取り組んでいます。

第9弾ESDプロジェクトは、国内最大級の砂丘湖である「佐潟」と、佐渡市が取り組む特別天然記念物「トキ」と共生する稲作を題材に取り上げました。



「国連生物多様性の10年（UNDB-J）」主催の生物多様性アクション大賞2015において本プロジェクトは入賞しました。

ラムサール条約登録湿地「佐潟」とは



新潟市立赤塚中学校に隣接する「佐潟」は、水鳥の生息地として国際的に重要であるとして、1996年にラムサール条約登録湿地になりました。この場所は鳥類相が豊富で、200種を超える鳥類が確認されており、渡り鳥の大切な中継地点になっています。特にコハクチョウの越冬数は全国有数で、毎年2,000～3,000羽の白鳥が佐潟で越冬しています。湖畔にある「佐潟水鳥・湿地センター」は、2011年5月に来館者数100万人を達成しています。

自然と共生する地域づくり～佐渡に学ぶ～

2017年7月19日（水）、新潟市立赤塚中学校の生徒約40人を対象に、ICT（情報通信技術）を活用した環境教育の授業を実施しました。この中学校では、佐潟に飛来する白鳥の保護活動や、「潟普請（かたぶしん）」と呼ばれる潟の定期的な保全・整備活動、湿地に生息する生きものの飼育や調査に取り組んでいます。今回のESDプロジェクトは生徒たちのこうした活動をサポートし、佐潟の大切さをさらに地域へ広めるお手伝いをしようと企画したものです。

環境教育の授業では、公益財団法人日本生態系協会の関事務局長がファシリテーターとなり、新潟県内の貴重な自然について解説した映像教材などを用いながら、佐潟の水辺環境が生きものと人の暮らしにどのような意味を持っていたのかを説明しました。また、天然記念物「トキ」をシンボルとした佐渡市の稲作の取り組みについても紹介し、「自然と共生する地域づくりとはなにか」について問いを投げかけました。

生徒たちは、普段整備している佐潟がなぜ国際的に評価されたのか改めて知るとともに、「潟」が地域の生態系ネットワークの形成に不可欠であること、新潟の生態系保全に大きく貢献していることを学びました。



関事務局長からは、「トキ・コウノトリに代表される高次消費者が確認できれば持続可能な環境といえる。いったん自然のバランスを崩してしまうと、どれだけのお金と労力をかけても取り戻すことができない。皆の周りには“里潟”という考え方が根付いている。それを大切にしてほしい」と呼び掛けました。生徒たちからは、「生活の質の向上のためによかれと思ってやったことが、実は環境に悪影響を与える場合があることを知った」、「全ての生きものにとって完璧な環境づくりは難しいかもしれないが、一つでもよいことを増やし、よい潟づくりをしたい」等の感想が寄せられました。

三井住友信託銀行では今後も、地域の自然・生態系保全活動の活性化と環境教育の実践に努めてまいります。